

1

次の文章を読み、問いに答えなさい。

キリスト教はローマの属州ユダヤに生まれたが、紀元 30 年頃にイエスが十字架で処刑されて間もなく、使徒(弟子)たちによって伝道が始まった。キリスト教徒たちはしばしば迫害されたが、⁽¹⁾4 世紀にはローマ帝国でキリスト教が公認されるまでになった。⁽²⁾

ローマ帝国が東西に分割された後、帝国領内に移動してきたゲルマン人の多くはアリウス派のキリスト教を信仰したが、フランク王国を建国したメロヴィング家の王は、⁽³⁾ニケーア公会議で正統とされたアタナシウス派に、早くも 496 年に改宗した。

一方、イスラームは開祖ムハンマドの頃からアラビア半島で大きな勢力となり、ウマイヤ朝時代の 8 世紀前半にはイベリア半島に到達し、フランク王国と境を接するまでになった。ウマイヤ朝では、被征服地の人々は税金を払うことで保護されたが、イスラームに改宗しても支配層のアラブ人ムスリムより劣った地位に置かれた。続くアッバース朝では、税制の改革により、民族によらずムスリム間の平等が図られ、⁽⁴⁾イスラームへの改宗者が増加した。アッバース朝の新都バグダードは、⁽⁵⁾イスラーム世界の経済や文化の中心地として繁栄した。

中世ヨーロッパでは、6 世紀に制定された戒律(会則)⁽⁶⁾に従う修道院が数多く建てられ、ローマ＝カトリック教会は勢力を拡大した。8～11 世紀頃、⁽⁷⁾スラヴ人やノルマン人(ヴァイキング)、マジャール人らが様々な土地を移動したが、彼らはキリスト教を受け入れ定着していった。教皇インノケンティウス 3 世(在位 1198～1216 年)の時に、教皇権は絶頂期を迎えたと言われる。その頃成立したフランチェスコ修道会は、13 世紀中にアジアまで布教に訪れている。

イエズス会士が日本にキリスト教を伝えたのは、ようやく 16 世紀になってからである。⁽⁸⁾南蛮船によって鉄砲がもたらされるなど、ヨーロッパとの接触は日本を大きく変化させた。しかしながら、いわゆる「鎖国」政策により、日本ではキリスト教が禁制となる一方で、アジアとアメリカのスペイン支配下の地域ではキリスト教が広まり、⁽⁹⁾太平洋をはさんだ貿易が行われた。

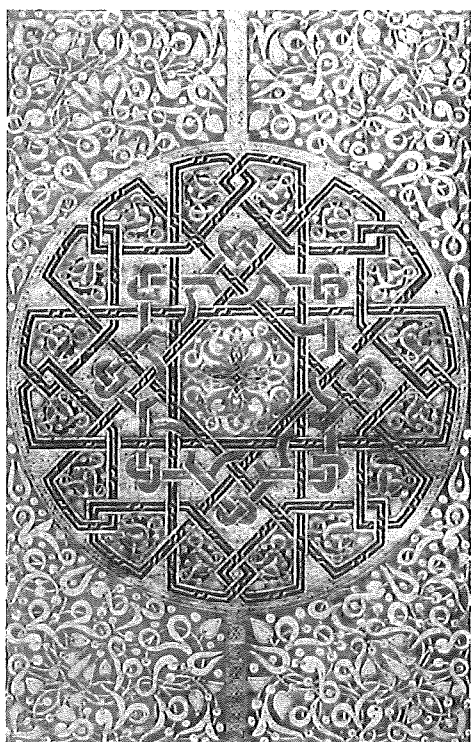


图 A



图 B

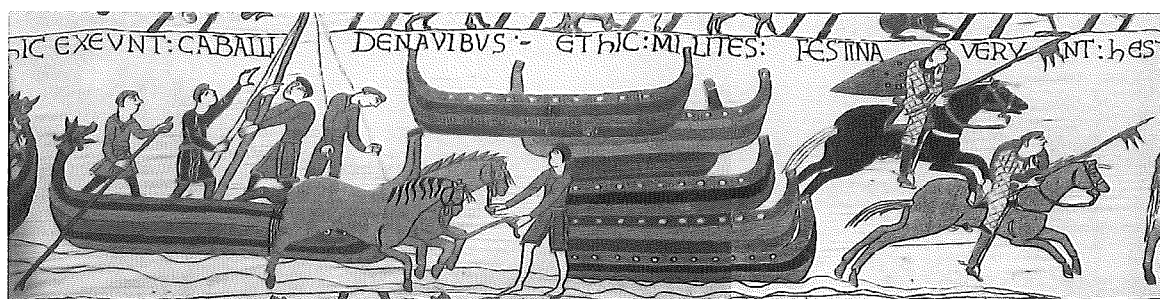


图 C

問 1 下線部(1)について、(ア)64年にキリスト教徒の迫害を行ったことで知られるローマ皇帝の名前を答えなさい。また(イ)その際に殉教したという伝承があり、歴代ローマ教皇がその「後継者」であるとしている、使徒を代表する人物の名前を答えなさい。

問 2 下線部(2)について、この頃までにローマ帝国、特に軍隊で普及していた東方起源の密儀宗教の名前を答えなさい。

問 3 下線部(3)について、(ア)この王の名前を答えなさい。また(イ)メロヴィング朝フランク王国のその後の発展を、この改宗と関連づけて説明しなさい。

問 4 下線部(4)について、この税制改革の具体的な内容を説明しなさい。

問 5 下線部(5)について、ムスリムはアラベスクと呼ばれる図Aのような表現を生み出した。また、キリスト教のイコンが図Bである。両者の違いから、図Aの表現の特徴と、そうした表現がなされた宗教的な理由を答えなさい。

問 6 下線部(6)について、モンテ＝カッシーノ(モンテ＝カシノ)に修道院を開き、この戒律(会則)を制定した修道士の名前を答えなさい。

問 7 下線部(7)について、(ア)ノルマン人の一派が現在の南イタリアに移動して建国した国の名前を答えなさい。また(イ)図Cはノルマン人のイングランド征服を描いた「バイユー刺繡画」(「バイユー＝タペストリ」とも呼ばれる)である。ここでは海を越えて上陸する場面を、左から右へと展開するように描いている。そこに表されるノルマン人の高度な水・陸の技術について説明しなさい。

問 8 下線部(8)について、イエズス会はラテンアメリカやアジアに進出して盛んに布教を行ったが、こうした布教活動を促した当時のカトリック教会が置かれた状況を説明しなさい。

問 9 下線部(9)について、(ア)スペインが太平洋上の交易ルートの東側(メキシコ)と西側(フィリピン)で拠点とした都市の名前をそれぞれ答えなさい。また、(イ)この太平洋をはさんだスペインの交易では、主にどのような商品が、それぞれどちらから運ばれたか、説明しなさい。

2 次の文章を読み、問いに答えなさい。

14 世紀に明を建国した朱元璋は、国外の反明勢力に対抗するため、自らの子らを北辺に配置してモンゴルを牽制し、また海禁政策を採用して海賊勢力の取り締まりを強化した。⁽¹⁾15 世紀初頭になって永楽帝が即位すると、明は対外積極策へと転換し、東北地域(満洲)など、北方での支配を広げただけでなく、鄭和に艦隊を率いさせて南海諸国に派遣した。この南海遠征によって、マレー半島に位置するマラッカ王国は東西交易の拠点として繁栄し、その後の東南アジア地域にも大きな影響を与えることとなった。⁽²⁾

しかし 15 世紀半ば以降になると、明は周囲の勢力の台頭に苦しめられ、16 世紀には世界的な商業の活発化や、交流の拡大の影響を受け、いわゆる「北虜南倭」の時代へと突入する。⁽³⁾国内は商工業の発達や文化的な成熟がみられた一方、⁽⁴⁾軍事費の増加や国内政治の腐敗が深刻になっていき、16 世紀後半に 帝が即位すると、宰相の張居正が主導する中央集権的な改革が進められたが、かえって各地の反発を招き、17 世紀半ばには農民の が率いる反乱によって首都の北京が陥落して明は滅亡した。⁽⁵⁾

その間、17 世紀初めに東北地域で勢力を拡大した女真族のヌルハチは、建国して国号を と定めた。その後、国号が清に改められると、清は明滅亡後の混乱した北京を陥落させて支配を広げたが、南方の雲南・広東・福建は依然として漢人の武將を王に任命して統治させていた。17 世紀の後半になって、これらの王が反乱を起こすと、それを平定することで、清は明の旧領を全て支配したのである。⁽⁶⁾その後、清は を拠点とする鄭氏を駆逐して領土に組み込んだほか、18 世紀半ばまでにはさらにその支配を拡大し、最大版図を実現した。⁽⁷⁾

問 1 空欄 ～ に適当な語句を記入しなさい。

問 2 下線部(1)について、明では海禁政策を採用したことによって、海上貿易のあり方がそれ以前とは大きく変化した。宋や元の海上貿易と明前半期の海上貿易の特徴を、その違いがわかるように説明しなさい。

問 3 下線部(2)について、明による南海遠征が途絶えた後も、マラッカ王国の繁栄は 16 世紀初め頃まで続いた。それを可能にした理由、および 15 世紀後半以降にマラッカ王国が東南アジア地域に与えた影響を、宗教的側面に言及しながら説明しなさい。

問 4 下線部(3)について、15 世紀半ばにはモンゴル高原西部を支配する遊牧部族集団との間に軍事衝突が起こり、明の皇帝が捕虜となる事件が起きた。
(ア)その事件の名称を答え、また(イ)明の皇帝を捕虜とした遊牧部族集団の名称を答えなさい。

問 5 下線部(4)について、「北虜南倭」の「北虜」は主にモンゴル人を、「南倭」は主に東南沿岸部の倭寇を指すが、16 世紀半ば頃にモンゴル人や倭寇が活動を活発化させた目的と、それを受けた明の対応を説明しなさい。

問 6 下線部(5)について、この時期には書物の出版が大幅に増えた。(ア)この頃の書物を出版するときに主に用いられた印刷方法は何か答えなさい。また(イ)明代に出版された小説のうち、2 ～ 3 世紀を舞台とする歴史小説の書名を答えなさい。

問 7 下線部(6)について、(ア)この反乱の名称を答え、また(イ)この反乱を主導した人物の名前を答えなさい。

問 8 下線部(7)について、この時期に清は主に西方へと支配領域を拡大した。それらの地域が清の支配領域に組み込まれた過程を、康熙帝と乾隆帝の事業に言及しながら説明しなさい。

3 次の文章を読み、問いに答えなさい。

近現代の世界における国民国家の形成を＜帝国の解体＞ないしは＜脱植民地化＞という視点から眺めてみよう。その第1波は、南北アメリカ大陸で発生した。1773年にイギリス本国による課税をめぐって北アメリカの入植者が実力行使に出て **A** を起こして緊張が高まると、1776年には独立宣言が發布され、戦争を経てアメリカ合衆国が成立した。フランス植民地のサン＝ドマングでは、1791年に黒人奴隷が反乱を起こし、**B** に率いられて大規模な運動になると、これがのちにハイチの独立へとつながった。19世紀前半にはスペイン領ラテンアメリカの全域にわたって新しい国民国家が生まれた。⁽¹⁾

第2波を可能にしたのは、第一次世界大戦であった。戦争は交戦国に大きな影響を与え、ユーラシアの諸帝国は相次いで崩壊していった。オスマン帝国は内側⁽²⁾から瓦解し、アナトリア地域を中心にトルコという国家に再編成された。ロシアでは、ツァーリ体制の崩壊がボリシェヴィキの政権奪取に道を開き、ソヴィエト連邦の成立に結びついた。またオーストリア＝ハンガリー帝国は戦争末期に急速に分解して、周辺部の諸民族が主権を主張した。**C** 講和会議では、「民族自決」⁽³⁾が指導的な理念となった。

第3波では、第二次世界大戦後に「第三世界」⁽⁴⁾として知られるようになる地域で、新たな国民国家が創出された。まずは大戦直後に南アジアや中東地域で独立⁽⁵⁾国家が誕生し、ついでアフリカやカリブ海地域の大部分で脱植民地化が進行した。とくに1960年は「アフリカの年」と呼ばれて数多くの新興国家が成立した。1970年代には、モザンビークと東ティモールでの **D** による支配が解体し、残存する植民地帝国が終焉を迎えた。

最後の波は、1990年代初頭にソヴィエト連邦やユーゴスラヴィア連邦⁽⁶⁾の解体とともに発生し、数々の地域が独立国家となった。そうした地域では民族主義が刺激され、民族間の紛争が頻発した。旧ユーゴスラヴィア連邦の地域では、ボスニア＝ヘルツェゴヴィナ⁽⁷⁾で住民間の対立が激化して内戦へと発展し、大量の難民が発生した。

問 1 文中の空欄

A

 ～

D

 に適切な語句を記入しなさい。

問 2 下線部(1)について、スペイン支配地域で誕生した独立国家に見られる共通の特徴を説明しなさい。

問 3 下線部(2)について、(ア)第一次世界大戦後にオスマン帝国の領土は分割されたが、そのうちイギリスやフランスと関連した中東地域での領土変更を簡潔に説明しなさい。また(イ)トルコ共和国の成立過程で実施された政策のうち文字改革の内容を簡潔に説明しなさい。

問 4 下線部(3)について、(ア)「民族自決」の理念を唱えた人物は誰か、答えなさい。また(イ)第一次世界大戦後の民族自決の理念がもった限界を簡潔に説明しなさい。

問 5 下線部(4)について、1954年に周恩来とネルーの会談で確認された「第三世界」諸国の運動を教導する理念をなんと呼ぶか、答えなさい。

問 6 下線部(5)について、イスラエル国家の成立にいたる経緯を次の4つの語句を用いて説明しなさい。その際、最初に用いた箇所に下線を引くこと。

シオニズム，パレスティナ，国連決議，第一次中東戦争

問 7 下線部(6)について、(ア)第二次世界大戦後に長らくユーゴスラヴィア社会主義連邦を指導した人物は誰か、答えなさい。また(イ)その人物が採用した外交政策を簡潔に説明しなさい。

問 8 下線部(7)について、ボスニア＝ヘルツェゴヴィナ地域での住民間の対立の構図を簡潔に説明しなさい。